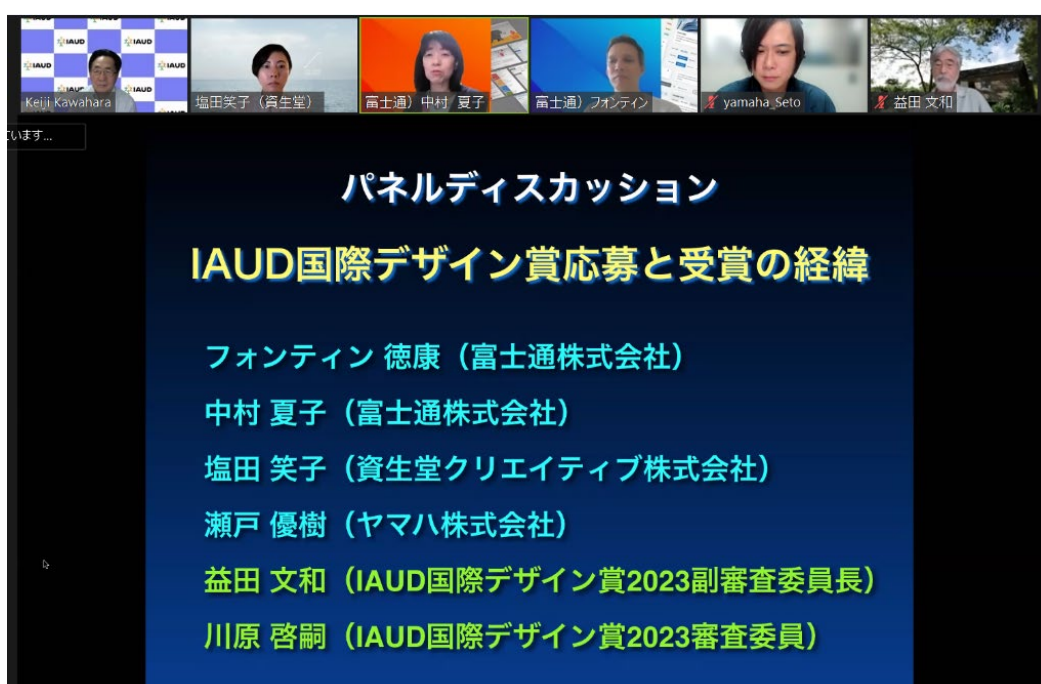


## IAUD Newsletter vol.16 第6号(2023年9月号)

1. IAUD創立20周年記念特集 未来への提言⑥第1回定例セミナー開催報告……1
2. 第2回IAUD定例セミナー「e-ラーニングによるUD人材育成」開催のご案内…7
3. IAUD国際UD研究講座2023受講生募集のお知らせ……………8
4. IAUD 2023年9月の予定……………9



## IAUD創立20周年特集 未来への提言⑥受賞事例からUDを考察 第1回定例セミナー「IAUD国際デザイン賞応募と受賞の経緯」開催報告



有意義なディスカッションが行われた「2023年度第1回 IAUD 定例セミナー」

日本初のUD推進団体であるIAUDは、2023年11月28日で創立20周年を迎えます。これも、IAUDの創立と発展にご尽力賜りました関係者の皆様、並びに日々の活動にご参加いただいている会員の皆様のご支援とご協力の賜物です。

創立20周年を迎えるにあたり、2023年度のNewsletterでは「創立20周年記念特集 未来への提言」を連載しております。

6回目は、7月6日(木)に開催された「2023年度第1回IAUD定例セミナー」を報告します。今回のテーマは、持続的な共生社会の実現に向けたUD活動を国際的に表彰する「IAUD国際デザイン賞2023」募集に合わせた「IAUD国際デザイン賞応募と受賞の経緯」とし、過去の受賞者から革新的なUDの取り組みや受賞後のメリットなどをお話していただきました。

また、審査委員とのパネルディスカッションでは、受賞事例からUDの意義を改めて考察したり、今後への提言など活発な意見交換が行われ、非常に有意義なセミナーとなりました。

## IAUD定例セミナーはUDに関する様々なテーマで講演

IAUD定例セミナーは、毎回、幅広い分野の専門家を招致して、UDに関するテーマで講演していただいております。

コロナ禍後初の開催となった今回は、テーマを「IAUD国際デザイン賞応募と受賞の経緯」とし、IAUD会員やIAUD国際デザイン賞へ応募を検討している方など約40人が参加しました。

当日の司会進行は、川原啓嗣専務理事／IAUD国際デザイン賞2023審査委員(名古屋学芸大学名誉教授)が務め、情報保障として日本語字幕を同時配信しました。

はじめに、古瀬敏理事長(静岡文化芸術大学名誉教授)より、開会の挨拶がありました。

古瀬理事長は、「本日講演いただくのは、コロナ禍の様々な制約がある状況で、企業が努力してきた成果の実例。IAUDの使命であるUD推進は、使い手との対話と相互理解によって成り立つもの。IAUD創立以来、多くのUDが実現されているという見方もあるが、現実はそのようではない。社会や技術の変化は早く、“UD7原則”※がきちんと踏まえられているとは言えない。この機会に改めて大元に立ち戻り、UDをきちんと取り組んでいくことが我々の使命であり、皆さまにもぜひそのように行動していただきたい」と述べました。

※UD7原則:米国の学者ロナルド・メイス氏らがUDのあるべき形を「誰でも公平に利用できる」「柔軟性がある」「シンプルかつ直感的に利用できる」「必要な情報がすぐにわかる」「ミスしても危険が起こらない」「小さな力でも利用できる」「十分な大きさや広さが確保されている」の7原則としてまとめた。



司会進行の川原審査委員



開会の挨拶を述べる古瀬理事長

## IAUD国際デザイン賞受賞の3企業が講演

つづいて、過去に「IAUD国際デザイン賞」大賞や金賞を受賞した日本を代表する3企業から、リモートで講演していただきました。

IAUD国際デザイン賞は、UDを対象とした世界唯一の国際的デザイン賞です。2011年に創設して以来、今回で13回目を迎え、これまでに国内外の優れた活動や製品が受賞してきました。

受賞者は、受賞した革新的な取り組みを紹介したほか、応募に至る経緯や応募する際に苦労した点、さらには受賞後のメリットなど、具体的にわかりやすくお話ししていただきました。各社の講演概要は以下のとおりです。

### ① 富士通株式会社(2016年、2018年、2019年大賞受賞)

「富士通のデザインシステム Fujitsu GUI※ Next Plus ~受賞の経緯とその後の展開」

富士通株式会社 フォンティン徳康氏、中村夏子氏



富士通株式会社は誰もが公平にソフトウェアを使い、社会全体でのシステムやインフラの発展を高めることで、公平で安心安全、豊かな社会の実現を目指している。

2012年に、ユーザーにとって一貫性を有し、多様なユーザーへの配慮があり、マルチデバイスに対応したUD配慮のソフトウェアを開発するプロジェクトを発足。2013年にはより多くの人が使え、多様な働き方に対応でき、異なる国の人も使える新しいGUIデザイン基盤Fujitsu GUI Next Plus(以下FGNP)を開発した。操作性、業務効率、モチベーションが向上し、様々な利用シーンで誰もが使いやすいユーザー体験を実現。現在、国内外様々な業種の製品やサービスへ展開している。

IAUD国際デザイン賞2016大賞受賞により、社内でUD対応の再確認ができ、UD配慮の付加価値にもつながった。その後FGNPはデザインシステムを体系化し、アクセシビリティ対応を進化させており、現在はプラットフォーム化を開発中。

※GUI:グラフィカルユーザーインターフェースの略。図や表などビジュアルで入出力操作する方式。

■IAUD国際デザイン賞2016大賞を受賞した「FUJITSU GUI Next Plus『誰もが公平にソフトウェアを使える社会に向けた新しいGUIデザイン基盤』」詳細は、[IAUD Newsletter vol.9 第10号\(2017年2月号\)](#)をご覧ください。

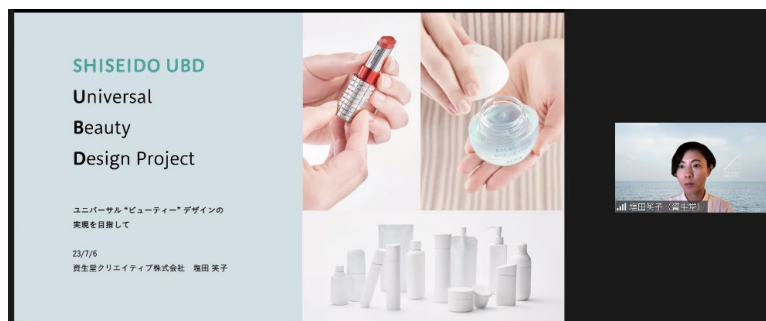


IAUD 国際デザイン賞2016大賞  
FUJITSU GUI Next Plus

## ② 株式会社資生堂(2018年、2019年、2022年金賞受賞)

「ユニバーサル「ビューティー」デザインの実現を目指して」

資生堂クリエイティブ株式会社 塩田笑子氏



株式会社資生堂は2004年に「UDガイドライン」を作成、2017年にはすべての人に美しいデザインを追求する「ユニバーサルビューティーデザインプロジェクト」を開始。ユーザーとの体験型ワークショップやリサーチなどを実施する一方、社内外に取り組みを配信するためにIAUD国際デザイン賞にはほぼ毎年応募している。

応募するにあたり、応募書類には日英併記や実績数値の表示を行い、さらに動画を用意するなどわかりやすい説明を重視。また、企業としての意義や社会に期待される成果も改めて考察している。



IAUD 国際デザイン賞2022金賞  
ライフクオリティー メイクアップ



IAUD国際デザイン賞では、審査委員会からの講評により客観的な評価やアドバイスを知り、更なる活動につなげることができる。さらに、受賞式でのプレゼンテーションでは社員が世界のUDの潮流を学べるよい機会にもなっていると考えている。

今後はIAUD国際デザイン賞がさらに活性化することで、社会にUDが広がり素晴らしい意義となるので、これからも応募していく。

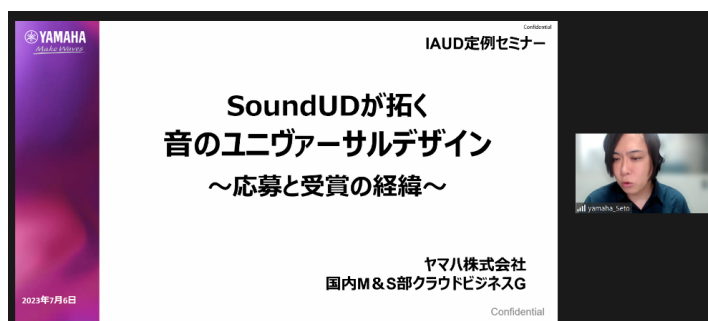
■IAUD国際デザイン賞2018金賞を受賞した「プリオール」の詳細は、[IAUD Newsletter vol.12 第3号\(2019年6月号\)](#)をご覧ください。

■IAUD国際デザイン賞2019金賞を受賞した「LAVENDER RING MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES supported by SHISEIDO」の詳細は、[IAUD Newsletter vol.12 第12号\(2020年3月号\)](#)をご覧ください。

### ③ ヤマハ株式会社(2019年大賞受賞、2016年、2022年金賞受賞)

「SoundUDが拓く”音のユニヴァーサルデザイン”～応募と受賞の経緯～」

ヤマハ株式会社 瀬戸優樹氏



ヤマハ株式会社は2016年に音のUD化支援システム「おもてなしガイド」を作成、2017年には言語や聴力への不安がない社会づくりを実現することを目的に、「サウンドUDコンソーシアム」を設立した。

現在は369社団体が技術企画を共通規格化し、業界横断的に音のUD化を推進しており、様々な施設でどんな音情報でも、同じアプリケーションで利用可能。18の多言語化・文字化を実現し、アナウンスやインターフォンで活用されている。

2014年に音のUDサービスを開始した際、「第5回国際UD会議2014 in 福島&東京」展示会場でブースを設置し、社内外への認知につなげた。さらに、IAUD国際デザイン賞2016大賞受賞後は、ニュースリリースの発信などで取り組みの重要性をアピールできた。「東京2020オリンピック」では全会場で導入されるなど、スポーツ業界にも拡大している。

今後も「UDはイノベーションの源泉」という理念のもと、更なる活動を推進していく。

■IAUD国際デザイン賞2019大賞を受賞した「SoundUD推進コンソーシアム」の詳細は、[IAUD Newsletter vol.12 第11号\(2020年2月号\)](#)をご覧ください。

■IAUD国際デザイン賞2016金賞を受賞した「音のユニバーサルデザイン化支援システム『おもてなしガイド』」の詳細は、[IAUD Newsletter vol.10 第2号\(2017年5月号\)](#)をご覧ください。



IAUD 国際デザイン賞2019大賞  
SoundUD 推進コンソーシアム

## 受賞事例からUDの意義を再考察

その後、IAUD国際デザイン賞2023審査委員会より、益田文和副審査委員長(株式会社オープンハウス代表取締役)と川原審査委員を迎え、受賞者とのパネルディスカッションが行われました。

審査委員からは、応募するにあたって留意すべき点や受賞への秘訣などの助言があったほか、UDの新たな意義や今後の取り組みへの提言がありました。

また、IAUD国際デザイン賞応募におけるアドバイスとして、「審査基準及び本質的目標を満たすようなテーマを設定」「海外の審査委員が多いため日英併記推奨」「追加資料には写真や図表、URLを添付してわかりやすく」などが挙げられたほか、審査観点や本質的目標、審査基準の説明がありました。

益田副審査委員長と川原審査委員からのコメント概要は以下のとおりです。

### 今後のUDの着眼点 益田副審査委員長

1980年代からUDに関わっているが、UDは非常に変化、進化している。日本企業のUDへの真摯な取り組みに、海外の審査委員は毎回、感銘を受けている。

富士通の洗練された取り組みには感動した。今後は、これをどうカスタマイズできるのか、各自が使いやすいようにできる柔軟性が必要。

デジタルが当たり前の今のこどもたちが大人になる時代には、エンドユーザーが参加するようなシステムになる。そこまで考えていくと、より革新的なものが生まれるだろう。

IAUD国際デザイン賞2020銅賞を受賞した資生堂「BAUM」の取り組みは、持続可能な方法で天然資源を利用し環境問題に取り組むUDとサステナブルデザインの融合体。開発の思想やプロセスを見せてくれれば、審査委員はより強く引き付けられたらだろう。今後は賞の深みをさらに意識してアプローチしてほしい。

新型コロナウイルス感染症の副作用による嗅覚障害が問題になっているが、においは指標がない。今後はにおいの分野でも深掘りしていくと、新しいUDの領域が見えてくるのでは。

ヤマハの音のUDでは、人間社会の中での音を問題視しているが、文明の出す音は生態系にも大きな影響を与えている。ヤマハは今後、自然界の中への音の影響も考えていけば、音のUDの取り組みはより大きなスケールになり、可能性も広がるだろう。



益田副審査委員長

### UDの根底には人権問題 川原審査委員

UDの対象は障害者や高齢者だけではない。UDにはゴールがなく、常に進化していく概念である。UDの領域は拡大しており、今後は自分の専門外の視点を導入しながら取り組むのがよい。

IAUDは創設以来、UDの根底には人権擁護、人間性の尊重があるとしているが、UDと人権の関わりはなかなか理解されづらい。日本企業には、女性の管理職登用促進など、より人権意識をもって取り組んでもらいたい。



川原審査委員

「UDはもう終わった」という意見もあるが、過去30年ほどのUD活動の成果で社会のUD化は飛躍的に向上しており、その間にも社会を構成する人々の多様性への認識は広がっていることから、UDの概念の拡張が必要。

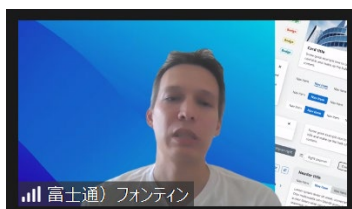
UDは広範囲のものであり、UDをきちんと理解し実践していれば、人権問題など多くの社会問題が解決につながる。

1948年、国際連合の第3回総会で採択された「世界人権宣言」の英文原題は、「Universal Declaration of Human Rights」。ユニヴァーサルな人権宣言で、まさにUDの原点である。

さらに、受賞者からも他社の講演や審査委員からのコメントを聞いての感想や、IAUD国際デザイン賞へ応募する意義、応募する際のアドバイスなどがありました。

受賞者4名からの発言の要点は以下のとおりです。

#### ・富士通株式会社 フォンティン 徳康氏



UDを浸透させる際のネットワークづくりが非常に参考になった。

アクセシビリティ対策でルールや標識だらけになると、逆に使いにくくなる。真のUDは対策が不要となること。

デジタルはカスタマイズ性が高いので、リアルではできないUDの可能性はある。

#### ・富士通株式会社 中村夏子氏

UDの概念は一般的になっているが、開発者にはアクセシビリティ対応として守らなければいけないものと受け取られ、まだ自分事になっていない。UDは人権問題など根源的なことである、という認知が不足している。

UDの理念や考え方は、若い人のほうが敏感。今後は学校できちんと教育していくことで、UDを根本から理解できる。



#### ・資生堂クリエイティブ株式会社 塩田笑子氏



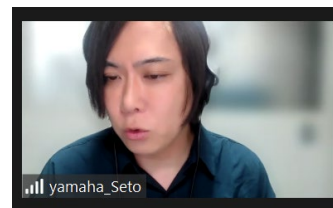
組織としてIAUD国際デザイン賞受賞を目的とすることで、社内でのUD意識が高まり、社会的にも認知を高めることができている。

今回は他社のUDの取り組みを知り、多くの発見があった。特に、嗅覚のUDは新しい着眼点なので、今後ぜひ注目したい。

#### ・ヤマハ株式会社 瀬戸優樹氏

社内外に取り組みを浸透させた際、IAUDでのつながりから刺激を受けた。1社だけでは限界があり、同じ思いを持つ他社と共有することが大切。

今回は他の事例から、UDへの別の切り口を学べた。今後もIAUDの場を利用して連携していけば、よりよい社会になる。





最後に、参加者からも、「新たな気づきが多い、学びのある充実したセミナーだった」「組織的なUDの取り組みがよく理解でき参考になった」「日本では気づきにくい人権についても、UDを捉えなおして対応したい」となど、高い評価をいただきました。

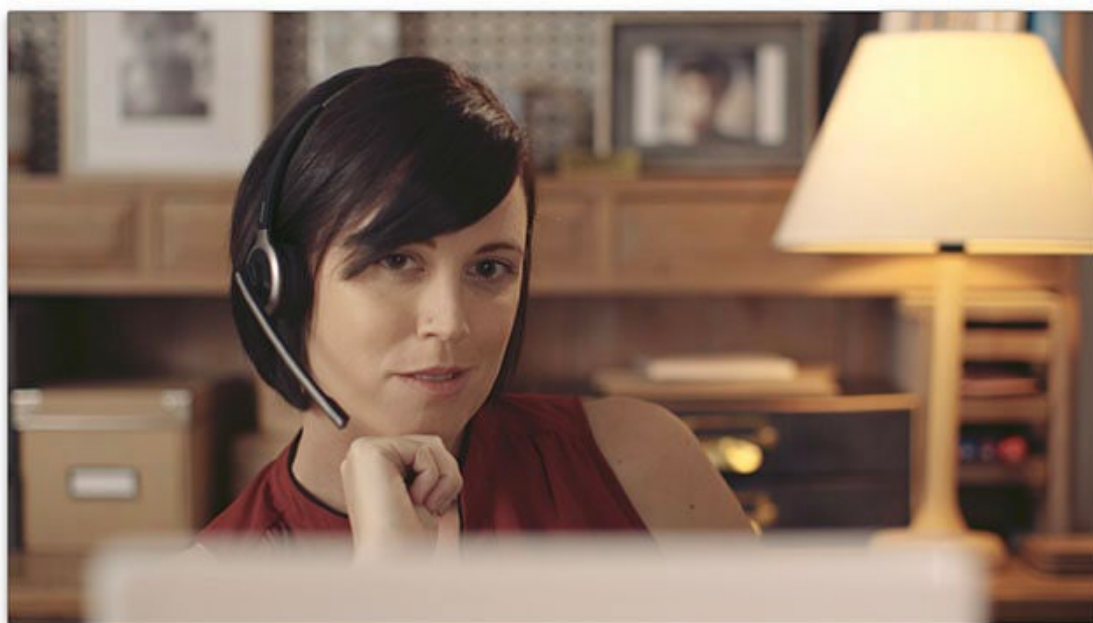
また、IAUD国際デザイン賞を検討している方々からも、「受賞が社会的認知につながる事がわかり、ぜひ応募したい」「皆さんのUDへの真摯な姿勢は応募の励みになった」などの感想がありました。

今回の定例セミナーは、幅広い分野のUDについてより理解を深め、UDに取り組むことの意義を再確認できる、有意義な素晴らしい機会となりました。今後もIAUDは定例セミナーを開催していきます。



## e-ラーニングによるUD人材育成を考える

2023年度第2回IAUD定例セミナー 9月13日(水)オンライン開催



IAUD 国際デザイン賞 2022 大賞受賞「HSBC アクセシビリティハブ」

IAUDは専門家を招聘してUDに関するテーマでご講演いただく「2023年度第2回IAUD定例セミナー」を、9月13日(水)17時よりオンラインで開催いたします。

今回のテーマは「e-ラーニングによるUD人材育成」です。

英国大手銀行HSBCのマリンサ・フェルナンド氏をお迎えし、IAUD国際デザイン賞2022大賞を受賞したHSBCの取り組み「アクセシビリティハブ」について講演していただきます。



フェルナンド氏と益田副審査委員

また、IAUD国際デザイン賞副審査委員長の益田文和氏(株式会社オープンハウス代表取締役/名古屋学芸大学客員教授)とのパネルディスカッションも行います。

IAUD会員の方は参加無料です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※2023年度第2回IAUD定例セミナーの詳細及び参加希望の方は[こちら](#)をご覧ください。



## 国際ユニヴァーサルデザイン研究学院開設 IAUD国際UD研究講座2023受講生募集のお知らせ

IAUDはこの度、より研究教育的な事業として「国際ユニヴァーサル研究学院」を設置し、2023年10月より「IAUD国際ユニヴァーサルデザイン研究講座」を開講いたします。

UDは障害者や高齢者向けのデザインだけを意味するものではありません。UDの領域は拡大進化しており、人権意識や社会の持続可能性を考慮したデザイン経営の実践こそがいまやUDの本質です。

「IAUD国際ユニヴァーサルデザイン研究講座」では、拡大進化するUDの課題を解決する思考法を身につけるためのリカレント教育やリスキングのコースを提供します。ぜひ、自己研修や経営幹部養成プログラムの一環として活用いただければ幸いです。

現在、第1期(2023年10月～2024年7月)の受講生を募集しており、この度シラバスが公開されました。

多様なUD領域の中から受講者の個性や能力に応じた選択肢を準備しており、基礎と専門のメソッドを習得出来るようなカリキュラムになっています。

修業年限は前期15週、後期15週の計30週です。講義は全てオンラインで行われ、情報保障として字幕を表示します。1回目のオンライン講義はリアルタイムでの受講となりますが、それ以降はいつでも好きな時にオンデマンドで視聴可能です。

第1期受講生の申込締め切りは**9月29日(金)**です。IAUD会員および学生は、受講料が割引になります。

さまざまな立場の方の積極的なご参加をお待ちしております。

※国際ユニヴァーサルデザイン研究講座の詳細や募集要項は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD国際ユニヴァーサルデザイン研究講座2023第1期シラバスは[こちら](#)をご覧ください。



IAUD 国際 UD 研究講座の講師。左から古瀬敏氏、川原啓嗣氏、久保雅義氏、相良二郎氏、大島誠氏、益田文和氏





# IAUD 2023年9月の予定

| 月  | 火  | 水                                  | 木                                | 金                          | 土  | 日  |
|--|----|------------------------------------|----------------------------------|----------------------------|----|----|
|  |    |                                    |                                  | 1                          | 2  | 3  |
| 4<br>15:00～<br>CM字幕研究PJ<br>意見交換会<br>@ライオン(株) | 5  | 6                                  | 7                                | 8                          | 9  | 10 |
| 11   | 12 | 13<br>17:00～<br>オンライン第2回<br>定例セミナー | 14<br>14:50～<br>衣のUDPJ<br>@オンライン | 15                         | 16 | 17 |
| 18<br>敬老の日                                   | 19 | 20                                 | 21                               | 22                         | 23 | 24 |
| 25   | 26 | 27                                 | 28                               | 29<br>国際UD研究講座<br>2023受講締切 | 30 |    |

次号は2023年10月上旬発行予定  
特集：創立20周年記念特集⑦

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 事務局

<http://www.iaud.net/>

e-mail: [info@iaud.net](mailto:info@iaud.net)

Instagram: [iaud.info](https://www.instagram.com/iaud.info)

LinkedIn: international association for universal design